

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ

ファイセック

# FICEC

発行

ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2009年 12月号 (隔月刊) 第106号

外国籍の方々に日本語を教えませんか。  
その具体的な方法の講習会です。ぜひご参加ください。

ふじみの国際交流センター

全  
10回

## 日本語の教え方と コミュニケーション

参加者募集中

大井地区歳末たすけあい募金配分金事業

講師 大島博幸先生  
(元YMCA日本語クラス講師、現ふじみ野市日本語指導員)

参加費 受講料・教材費 無料  
料理教室3回分材料費として500円

募集 30人

申し込み・問い合わせ  
NPO法人ふじみの国際交流センター  
**049-256-4290**

### 初期

- ①日本語ボランティアになる 12/16[水]
- ②日本語を教えるって? 12/22[火]
- ③教え方の枠組み 1/12[火]
- ④授業を組み立ててみよう! 1/20[水]
- ★インドネシア料理教室 1/27[水]

### 後期

- ⑧コミュニケーションの実際 3/ 2[火]
- ⑨個別技能の指導 3/10[水]
- ⑩学習者中心の活動を! 3/16[火]
- ★修了式と多国籍料理 3/24[水]  
修了証を授与いたします

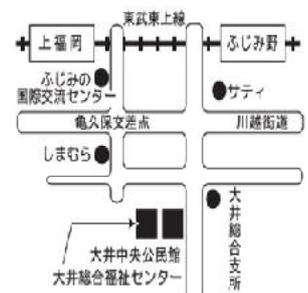
### 中期

- ⑤初級授業の実際 I 2/ 2[火]
- ⑥初級授業の実際 II 2/10[水]
- ⑦楽しい教室活動を! 2/16[火]
- ★パキスタン料理教室 2/24[水]

場所 大井総合福祉センター  
大井中央公民館

時間 ①~⑩ 13:30~15:30  
★ 10:00~13:00

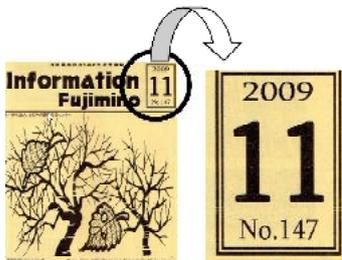
外国料理も学べます



## 多言語情報誌「インフォメーションふじみの」 12年以上、月刊で発行を継続

### 会員の後押しで迎えた13年目

下の図が何を表しているのかを知る人は少ないと思います。普通なら何の意味を持たない単なる発行月の数字と考えます。しかしこの出版社においても、この一番下に表記された数字が伝統であり、読者に支持されてきたという誇りであり感謝の数字でもあります。



三兆円市場といわれる出版界も、いま利益率の悪化で多くの出版社が苦しんでいます。

ふじみの国際交流センターは出版社ではありません。でも私たちはこの数字を誇りに発行を続けてきました。ここで言う「NO.147」は毎月1回発行で147か月続いてきたという意味なのです。つまり $147 \div 12 \text{か月} = 12.25 \text{年}$ 、13年目に入ったセンター誕生と同じく、毎月続けて来られたという証なのです。

「インフォメーション ふじみの」は、ふじみの国際交流センターが生まれる時、発起人である石井ナナエ（現理事長）さんが「2市2町（13年前）に住む外国籍市民にも、日本人市民と同じ情報を共有するべきではないか」という発想で生まれた機関紙です。

それは資金のまったくない発足時、賛同して集ったメンバーの寄付金で用紙を求め、まったくの手書きで作り上げてきた8カ国語にわたる堂々の？生活情報誌でした。いま振り返る時、この147の数字は、生まれてから今に至る長い期間にもかかわらず、多くの会員による信頼と支持の象徴と深く感謝しています。

### 時代とともに進化した編集内容

現在「インフォメーション ふじみの」は、2市1町の主要公共施設及び近郊の関係部署へと送付していますが、富士見市では市のホームページや広報紙である「ふじみ」にも毎月紹介記事が掲載され、その存在が高く評価されています。

約13年前、2市2町の身近な話題の紹介から始まった「インフォメーション ふじみの」、その編集内容も、事業の拡大が進むにつれて大きく変貌を遂げてきました。要因はセンターの柱である生活相談の充実にあります。外国からの訪問者が1日25,000人といわれる昨今、定住者も増加し問題も山積しています。それを生活レベルで支援しているのが、センターの精鋭相談員の存在です。年間600回以上にも及ぶ相談内容は、行政レベルでは手の回らない問題を解決して来た事例は枚挙にいとまがありません。

医療、生活、教育、司法、住居、家族、言葉、仕事、入管、近所付き合いと、日頃私たちが当たり前の話題であっても外国籍市民にとっては、死活問題にかかわるものへと変貌する事実、相談員から寄せられる、その生活相談1件1件から浮かび上がってくる問題を文字化して提供して来たのが「インフォメーション ふじみの」です。

「敬して失無く、人と恭しくして礼あらば、四海の内みな兄弟なり」

外国籍市民を思う時、この言葉が思い起こされます。情報はクモの巣で世界の隅々から簡単に手に入る現代です。入手困難なのは人の心、センターは心のウェブでのプロバイダーを目指しています。私たち編集スタッフは、生活相談や「インフォメーション ふじみの」を通して日本人同様の外国籍市民への“インフラ整備”を常に訴えています。（文：岩田仁）

## 「インフォメーションふじみの」近年のテーマ一覧（2005年11月～2009年11月）

号	テーマ	号	テーマ
100	公・私立保育所(園)児童募集が始まります	124	「日本語学校に入りたい」…就学ビザが必要って何ですか？
101	オーバーステイの方におすすめます <sup>3</sup> 自主出頭	125	“PTA”って何？
102	一人親家庭への支援制度 高校入学を待つ児童に支援金を支給します	126	“保育所と保育園” どう違うの？待機って何？
103	外国語対応医療機関 ふじみ野市篇	127	“家庭訪問のお知らせ”ってなーに？
104	人身取引被害者 そんな時には…	128	もう一人ではありません。子育てグループに入りませんか
105	国籍法解釈に新しい風 子どもの国籍認知にちょっと朗報です	129	「利彩館」で日常生活の宝探しをしてみませんか
106	得報です！児童手当制度を小学6年生までに延長	130	「りれきしょ(履歴書)」ってなんですか？
107	国民健康保険の上手な使い方	131	高校進学ガイダンスが始まります
108	保証人代わりの「保証会社」	132	「一時帰国します」でも日本に戻れなくなることもありますよ！？
109	「定住者」は行いが“善良”でなければ入国できなくなりました。	133	働くお母さんの強い見方です、保育所・保育園。
110	日本入国には指紋の提供などが義務付けられます	134	預金通帳を作るには？ 実家にお金を送りたいのですが…
111	「心配が大きくなる前にご相談ください」	135	定住ビザを取りたいのですが、どうすれば？
112	冬の季節はご用心！インフルエンザに打ち克つ法	136	パスポート、ビザも有りません！！ 暴力夫から逃れたいのです
113	日本語教室ガイド	137	そろそろ地デジタル受信準備をしませんか
114	パソコン教室ガイド	138	外国運転免許を日本での運転免許に切り替えるには
115	あなたはお子さんの時間表を読めますか	139	ご近所マナーの第一歩 「ごみの出し方」
116	知っておきたい「花粉症」予防と治療	140	スキルアップや資格取得「埼玉県立高等技術専門学校」の案内
117	予防注射(接種) どんな種類？いくらかかるの？	141	押す前に一度考えましょう、ハンコの使い方
118	「部屋代、駐車場代の前払い制度」ってなーに？	142	DV、離婚… こんなにもあります救いの手、日本の社会保障制度
119	8ヶ国語で相談できます「埼玉県外国人ヘルプデスク」	143	ローン地獄に落ちないために… 借りの前、買う前にも一度考えましょう
120	DV(家庭内暴力)について考えてみましょう	144	公民館、交流センターのサークルで友達づくり、趣味づくり
121	上手なゴミの出し方で笑顔のお付き合い	145	出生後の認知… 子どもの国籍取得の条件が大きく変わりました
122	郵便局は10月1日から民営化になりました	146	払った年金が戻ってくるのを知っていましたか。帰国時の解約について。
123	日本での思い出作り「日本語能力試験」に挑戦しませんか！	147	健康保険料が払えないとき、分割で払うこともできるのです。

## イベントのご案内

## 埼玉県DV防止出前講座

### DV 被害者支援ボランティア講座

ふじみの国際交流センターでは、DV（家庭内暴力）被害を受けた外国人女性などへの支援活動を行っていますが、そのボランティア参加のための講座を開催いたします。正しい知識を学んで、心身の傷を受けた被害者に対して、やさしく、適切な支援をするための研修会です。

講師 / 仲村久代氏

特定非営利活動法人 サバイバル  
ネット・ライフ 代表  
女性と子どもの人権を守り、誰  
もが健康で安全に安心して生き  
るための暴力のない地域づくり  
と被害者支援。

日程 / 2009年12月19日(土) 13:00～15:00

場所 / ふじみの国際交流センター

募集 / 30人

これからボランティアを始める方の参加もお待ちしています。

参加費 / 無料

申込・問合せ / ふじみの国際交流センター

## 学生たちが社会人と触れ合うインターンシップ 大学や市民団体のプログラムでセンターの活動に参加 現場で体験し、学んだ事柄の数々

「インターンシップ」というのは、大学生などが一定期間の実務研修を行い、卒業後、社会に出るための準備をするという教育プログラム。もともとは企業での研修として始まったものだが、広く社会的視野を身につけるという意味で、近年ではNPOなど市民団体での研修も行われるようになってきている。ふじみの国際交流センター（FICEC）にも、毎年、大学生がインターンシップとして活動に参加しているが、そうした学生たちが、FICECでの研修でどんな活動をし、何を学び取っているのかを取材した。

### 大学の科目の一つとして NPOの活動に参加

埼玉大学では、学部横断的な教養科目の一つとして「社会と出会う」という科目群を設けている。これは、学生が社会に直接触れながら、社会人になること、仕事をする事、社会に出ることはどういうことかについて学んでいくというもの。その中の「NPOと出会う」という科目では、埼玉県内のいくつかのNPOで実際に活動に参加するというインターンシップが組み込まれている。これは、夏休み期間中に10日間の活動体験をするというもので、まさに直接的に社会人といっしょになって活動に参加することになる。

埼玉大学共生社会教育研究センター講師の浜本由里子さんは、こうしたNPOでの活動体験について、「現場での実体験は、大学の講義とは違う学習内容があると思います。想像していたものとはまったく違う現実があったり、自分の考え方が変化したり、あるいはこれま

でとは違う自分の価値に気づいたり。NPOには、子どももいるし、年配者もいるし、障害を持った方々もいる。そういういろんな方々と接することは、学生の大きな収穫になると思います」と話す。

### 同じ地域に住む友人同士 としての支援活動

今回、FICECの活動に参加したのは、経済学部2年生の高橋史子さん、教養学部1年生の中村剛恭さん。

高橋さんは、日本語教室で日本語を教えたり、国際子どもクラブで外国籍の子どもたちに勉強を教えるなどの活動をしたが、強く印象に残ったのが地域のお祭りの出店でインド人のカレー店の手伝いをしたこと。「私は心のどこかで日本人と外国人は違うと決めつけていたが、接してみると、インド人の方はすごく愛想がよくて親切。お互いに一人の人間として接することが大切だと感じた」と、インターンシップの報告書に書いている。また、紛争の多い地域から来た中学生が「自分の国では学校を卒業して軍隊に入って、すぐに死ぬ人もいる。自分も死んでもかまわない」と話していることにショックを受け、「平和なことがどれだけ大切か」を考えさせられたとも話している。



中村さん（左）と高橋さん

中村さんも、日本語教室や国際子どもクラブなどに参加。日本人の夫からDV(家庭内暴力)を受けた外国人女性が、それでも「あんなひどい土地には戻りたくない」と母国へ帰りがらないという事例を聞いたり、難しい日本語の習得に苦労する外国人の事例をFICECのスタッフとともに体験。そして、大学へのレポートの最後は、「言葉の壁はあっても、お互いにデザートを持ち寄って、お茶を飲みながら談笑するセンターの皆さんと外国人の間には、友情が芽生えているように感じた。自分のできる範囲で外国籍の『友人』に手助けをする。それが本当のボランティアと呼べるのだと思う」と結んでいる。

## 社会的な視野と志をもつ 「市民社会人」を育成

東京・大手町に事務局のあるNPO法人市民社会創造ファンドは、市民社会の新しい担い手としてのNPO(民間非営利組織)に着目し、その基盤強化や、活動のための支援をしている団体。NPOへの支援を目的としたNPOだ。個人、企業、団体等から寄付や助成を受けて、さまざまな支援プログラムを実施しているが、その一つが「SSCSインターンシップ奨励プログラム」。大学などで学ぶ若者が、インターンとしてNPOで活動しながら、社会的な視野と志を持つ「市民社会人」として成長してもらおうというもの。その受け入れ先として、今年からFICECが加わった。

インターン生は、7月から翌年6月までの1年間(4年生などの場合には翌年3月までの9か月間)で400時間を上限に活動を行う。学生には一定の活動奨励金が支払われるほか、受け入れのNPO側にも助成金が支払われる仕組みになっている。

SSCS事務局の霜田美奈さんは、「受け入れ団



左から上島さん、沢田さん、神田さん

体の方々には、『学生の学びの場』という意識で取り組んでいただいて、年間の活動カリキュラムを決めていただいたり、疑問点などを相談できる役割の方(メンター)も置いていただいたりしています」と話す。

受け入れ先のNPOは、今年の場合、FICECを含めて全国で8団体。学生は、参加したいNPOを特定して応募し、書類選考の後にNPO側とSSCS側合同の面接を受けて選定されることになっている。FICECについては、今年、大妻女子大学4年の神田歩さんと、玉川大学3年の沢田恵理さんが面接をとおり、活動に参加することになった。

FICECでメンターとなった上島直美さんは、子育て、主婦業、仕事、そしてセンターでのボランティアと、三役、四役をこなしているスタッフ。「とにかく、初めから真夜中、朝方を含めてお互いのメール攻勢で連絡を取り合いました」とのこと。「最初は、いろんなことにタッチしてもらって、FICECがどんなことをやっているのかを知ってもらうようにしました。その上で、お二人の将来的な展望に合わせた活動をしてもらいたいと思っています」と話している。

## え、専従スタッフが一人もいないの？

神田さんは、大学では社会学専攻。社会的な性の問題を扱うジェンダーや移民問題に取り組み、またDV支援などもボランティアで行っていた。FICECがDV被害を受けた外国人

女性などの支援をしているのを知ったのは、活動に参加しはじめてからだというが、「活動全般を知ろうということで、スタッフ会議などに出ているうちに、全部に興味がわいて、とにかくヒマさえあればセンターに来ているという状態です」と笑いながら話す。相談の電話を取ったり、国際子どもクラブで、外国籍の子どもたちの指導をしたりと、活発に活動に取り組んでいる。

一方の沢田さんは、小学校の先生になるのが将来の希望。現在は、日本語教室や子どもクラブで指導するのが主な活動内容だ。

二人が共通して抱いているのが、「専従スタッフが一人もいなくて、よくこれだけの活動をしているな」という感想。「これまでかわった NGO では、必ず専従スタッフがいて、その人たちが活動を担っている。でも、このセンターはすべてボランティアで、毎日人が入れ替わっています」と神田さん。沢田さんも、「よく SSCS の他の団体に行っている学生とも

話すんですが、専従スタッフが一人もいないというのは、まずないですね」と驚いた様子。しかし、二人ともそのことについて、「地域に住んでいる人たちが協力して作り上げている団体なんだなと思います」と肯定的にとらえている様子だ。

沢田さんは、「私が興味のある教育関係の活動として、12月から3月にかけて、センター主催で日本語指導者研修が開かれることになっているので、それが成功するよう、お手伝いしたいと思っています」とのこと。また、神田さんは、「いま、センターの活動を担っている方々は、比較的年配の人が多いと思います。でも、若い人もセンターの活動を知れば、どんどん参加してくるのではないかと思います。そんな仕組みをどうしたら作れるか、そのことも、これから考えていきたいと思っています」と、二人ともすっかり FICEC の活動に解け込んでいる様子だ。

(取材・文：内藤忍)

## イベントのご案内

### 会員対象料理教室「台湾料理と交流会」

ふじみの国際交流センターの会員の方々を対象として、「料理を作って食事会」を内容とする交流会を開催いたします。日本でも人気の高い台湾の家庭料理を作ります。台湾出身の山崎友理さんが、そのふるさとの味を教えます。

#### 料理

- ・油飯(ヨーファン)【中華おこわ】
- ・パイツイアパイクール【白菜とスペアリブ入り煮込みスープ】
- ・ツィンツイアツァオヨー【セロリとイカ炒め】
- ・ポーツイアツァオスワントオ【ほうれん草とにんにく炒め】
- ・パイツェイツァオタン【玉子とトマト炒め】

日程 / 2010年1月12日(火)

10:00 ~ 13:00

場所 / ふじみ野市西公民館調理室

講師 / 山崎友理

募集 / 25人

参加費 / 材料費として300円

申し込み・問い合わせ /

ふじみの交際交流センター

## 「外国人登録カード」とは 外国籍市民の戸籍であり住民票

藤林 美穂

「外国人登録カード」を実際に見たことのある方はどれくらいいるでしょうか。これ、日本に暮らす外国人なら外出時も必ず携帯しなければならないものなのです。プラスチックのカードに、顔写真と、在留資格や住所、生年月日、日本への入国年月日などが書き込まれています。警察に職務質問されてこれを持っていなかったりすると最悪の場合、「ちょっと署へ来てもらおうか」ということになりかねず、また法律上は「20万円以下の罰金」となっています。厳しいですね。

外国人が日本に入国する時、90日以上滞在する場合は必ず市区町村役場で外国人登録をしなければなりません。たとえ在留資格のないオーバーステイの人でも本来は登録が義務になっています。行政は、この登録情報によって地域の外国人住民数を把握しています。つまり、そもそも外国人登録は、行政が外国人を管理するためのものです。

外国人登録するとカードが交付されます。在日外国人には戸籍や住民票はないので、身分証明が必要な場合は、このカードのコピーをとるか、あるいは役場で「外国人登録原票記載事項証明書(外国人登録証)」という書類を発行してもらうこととなります。外国人の在留資格はその在留期間に応じて1年あるいは3年ごとに「更新」手続きをしますが、それとは別にこの外国人登録は5年あるいは7年ごとに登録更新をします。

一見この外国人登録は市区町村役場が管轄しているように見えますが、実際には役場で登録した情報は、すべて入国管理局にも送られています。オーバーステイの人が外国人登録すると情報が入管に送られ、ある日「入管に出頭しなさい」という呼び出し状が来る、とい

うこともあります(登録したら必ず来る、というわけではない)。オーバーステイの人が入管にみつかるとリスクをおかしてでも外国人登録するのは、日本で生活する上で身分証明が何もないといろいろ困ることがあるからです。

たとえば、就職する時や婚姻届を出す時、住まいを借りる時、そして在留資格の更新・変更をする時など、さまざまな場面で外国人は外国人登録証の提示を求められます。前述したように、日本人なら必ず戸籍・住民票というものがあり、それによって身分証明もし、行政からは管理されているわけですが、外国人の場合はそれが外国人登録ということなのです。

外国人登録カードを見ると持ち主の詳しい状況がわかるので、在留についての相談を受ける場合には必ずチェックします。裏面も手書きで変更事項が書いてあるので、要チェックです。毎回このカードを見るたびに、こんな小さなカードによくこれだけ個人情報を含め込んでいるなあと感じてしまいます。逆に言えばカードを落としたりするといろいろ悪用されてしまう可能性もあるわけで、それを常時携帯するのはかなりストレスだろうと想像します。外国人に限らず、毎日のように「身分確認」させられる現代社会では、しかたないことなのかも知れませんが...

### 筆者紹介

10年あまりNGOで働いた後、フィリピン人支援グループでボランティアしたり写真の勉強をしたりしつつ昨年行政書士として開業、これから外国人のビザ取得などの仕事を中心にやっていきたいと思っています。どうぞよろしく。

ライフ行政書士事務所

<http://officelife.sakura.ne.jp/>

<http://shigotonichiroku.sblo.jp/>

センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
 口座名：ふじみの国際交流センター

**ご寄付をいただいた方々**

ご支援ありがとうございます

2008年4月～(50音順・敬称略)  
 (株)オムテック 尾高昇 太田原裕 小原  
 富明 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘  
 金子康子 国際ソロプチミスト埼玉 後  
 藤泰博 駒形一夫 斉藤彩子 穴戸フミ  
 工 菅山修二 鈴木譲二 立麻医院 曹  
 圻 寺村仁 中嶋恵津子 西山正浩 萩  
 原千代子 東入間地区遊技業防犯協力  
 会 (株)マイカル大井サティ 馮雪蘭 百  
 瀬滉 柳原国江 (有)矢野住研 吉田純  
 ー ワン・シーウェン

**たくさんのご寄付に御礼申し上げます**

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年以上になります。その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もお支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター(FICEC)一同

**サービス料金表**

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター(製版代) 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金		
講師派遣	国際理解教育	3,000円+交通費		
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)		
	語学教室			
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談		
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作			
	日本語によるチラシデザイン(A4判)	1枚5,000円		
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4判1頁、40字・30行	1枚1,000円
		その他の文書	A4判1頁、40字・20行	1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ロシア語、ベトナム語、シンハラ語	半日5,000円+交通費		

**特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291  
 生活相談専用電話: 049-269-6450

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。